

2020年度 ND教育センター活動報告

2021年5月1日発行



ごあいさつ

ND教育センター長 神月 紀輔

2020年度は大学教育がコロナ禍に振り回された年度になりました。学生の登校できない日々が続き、これまであまり考えられなかったオンライン学習が一気にクローズアップされ、私の着任直後はこの対応に追われました。しかし、少しのヒントを研修でお教えただけで、創造的な授業が多くみられ、学生の満足度の高いものになり、新しい知見を得ることになりました。この知見を生かした結果、文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」の補助金を3月に獲得できたのは大きな成果です。

また、1年次生対象の必修英語(英語英文学科除く)に関する担当者のコミュニティができ、従来のプレースメント・アチーブメントテストに代わる評価方法の開発や、文書作成、情報等のe-Learningを含む学習アドバイジングなど地道な学習支援の活動、さらに高大連携活動の中での高校生対象の大学授業の先取りなど、多くの活動にND教育センター教職員を中心に取り組んでいただき、学生の学習支援をバックアップいただきました。

2021年度は新しいカリキュラムが動き出し、共通教育や情報活用力プログラムでのさらなる学生の学びを支援いたします。そしてDXも活用しながらこれまでの一斉授業に頼るだけの授業から学生の学びに「個別最適化」された学修を開発強化したいと考えています。どうか今後ともご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

2021年5月1日

新型コロナウイルス感染拡大防止下のND教育センターの対応

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、前期授業はオンラインでの実施となり、後期の授業も原則対面による通常授業実施を基本としつつ、一部でオンライン授業、そしてオンラインと対面のブレンド型というかたちで進められました。

本学では、LMS(Learning Management System)であるmanabaとresponを導入していたことと全学的な理解・協力もあって、大きな混乱は避けられました。

ND教育センターでは各部署と連携しながら、教職員へのサポート体制

を中心に整えました。オンライン授業実施決定後、manabaのコースに「オンライン授業サポート」を開設。ここで、manabaやMicrosoft Teams、Zoomなどの利用案内をはじめ、オンデマンド授業の方法やアイデア、問い合わせ対応などを行いました。また、4月2日(木)～9日(木)の平日15:00から、9月3日(木)・8日(火)・17日(木)のそれぞれ11:00から、manaba講習会も実施しました。

2021年度以降も、引き続きmanabaとresponの運用を中心にサポートを行います。

2021年度 新共通教育課程に向けて

前年度から引き続き、2021年度からの共通教育課程について検討作業と最終の調整作業をすすめました。

創立60周年を迎える2021年度、「『対話』から始まるND教育」として、右の3つの柱を軸に人・物・事との対話を大切にしたい新しい学びを

始めます。

1. 4年間を通じて積み上げる「ことば」の教育
2. 授業内外の学習で、深く、広く学ぶ
3. 「失敗」から学ぶ—主体性を持って人・物・事と対話する

2021年度 学部横断プログラム「情報活用カプログラム」

ND教育センター会議を中心に、2021年度から始まる学部横断プログラム「情報活用カプログラム」の検討と最終の調整作業をすすめました。

このプログラムは、情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それらが社会に与える影響を理解した上で新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討し、

実践できる人材の養成を目的としています。本プログラムの科目には上級情報処理士資格取得のために必要な科目も含まれているので、上級情報処理士資格取得を目指すこともできます。なお、2年次生以上は、情報処理士資格を取得することにより「情報活用カプログラム(基礎)」の認定が可能です。

文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択

全学で取り組んできた、文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に、関西の女子大で唯一採択されました。これは、令和2年度第3次補正予算(60億円)に対してのべ252校が応募し、54校が採択されたものでした。本学の取り組みでは、デジタル技術を活用しつつ、「小規模女子大学における「ブレンド型授業モデル」の創出—「つまずき経験」で「前向き力」を涵養する個別最適化プラン」と題して、

試行錯誤を重ねる中で自ら課題を発見し解決する力「つまずき経験」を通して壁を越え、不確実な時代を自信を持って学び続ける「前向き力」を養うことを目標としています。

各部署と連携し、全ての学修者にとってより適した教育の実現をめざすため、DXを推進していきます。

2020年度学長裁量経費「共通教育必修英語科目及び学習サポート体制の充実化による学生の英語力向上に関するプログラムの構築」

2020年度学長裁量経費に採択された本取組は、必修英語科目における学生の英語力向上策を改めて検討するとともに、学習サポートによるフォロー体制を充実させ、両者が密に連携したプログラムの構築を目的としています。

科目の運営にあたってはCollective Teacher Efficacy (CTE)の手法を取り入れ、各クラス担当教員間の連携が重要であることから、情報共有の場を設けるとともに、この取組に賛同する教員が自らの研究活動に生か

せるよう共同研究グループを組織しました。今回の取組により、各クラスの連携意識が芽生え、議論を重ねるなかで共通する問題点などが明らかとなり、それに対する各教員のアイデアや効果的な手法を共有できました。また、英語多読の推奨や英語学習ポイントカードなど、英語力向上のための取組も実施しました。これらの取組は、2021年度以降も引き続き行っていきます。

英語実力テスト

毎年度、1年次生対象のテストを4月と2月に実施(4月は実力テスト、2月はアチーブメントテスト)していましたが、2020年度は12月にTOEIC Listening & Reading IPテスト(オンライン)を実施しました。

対象: 全1年次生(英語英文学科除く)
期間: 12月9日(水)～12月21日(月)
上記期間内に各自で受験。

授業評価アンケート

教育の質的向上を目的に、授業の最終段階で学生が授業を振り返るアンケートを実施。

実施対象者:全受講生(学部)

実施科目:開講する学部の全科目(一部期間外の学外実習科目を除く。)

実施方法:manabaで回答。

※ND教育センターでの実施・集計後、共通教育科目についてはND教育センターで、専門科目についてはFD委員会で、それぞれ分析を行います。

・前期(夏期集中含む)

実施期間:7月8日(水)～8月4日(火)

(夏期集中科目 開講期間中～9月24日(木))

フィードバックコメントの記入期間:8月5日(水)～9月24日(木)

回答率:38.9%(受講者総数13620、回答数5297)

・後期(春期集中含む)

実施期間:1月4日(月)～1月26日(火)

(春期集中科目 開講期間中)

フィードバックコメントの記入期間:1月27日(水)～2月15日(月)

回答率:30.1%(受講者総数12907、回答数3890)

i-Space活動報告

新型コロナウイルス対策を徹底したうえで、以下のイベントを実施しました。

・前期

未実施

・後期

コリア語チャットルーム

第1回:11月26日(木)5講時 4名

第2回:12月17日(木)5講時 3名



学習アドバイジング

・「文章作成の基礎づくり」

9月から、manabaを活用した学習サポート「文章作成の基礎づくり」を行いました。センターが提供する文章作成に関する課題に取り組むことにより、苦手意識を克服し、段階的に基礎を身につけていきます。

課題1. レポートにふさわしい文体 「である」体を使う 15名

課題2. 文語を使う 11名

課題3. 「私は(わたしは)」「～と思う」を避ける 9名

課題4. 句読点の使い方 8名

2021年度も、引き続き実施していきます。

・学習相談

後期から、火曜日と木曜日の12:00～14:00に、ユージニア館2階ロビーで「文章作成アドバイジング」を実施しました。引き続き、2021年度も実施予定です。

入学前教育実施報告

高校での学びから大学での学びへスムーズに移行できるよう、おもに早期入学予定者を対象に入学前教育・講座を実施しました。

・入学前学科課題

入学予定の学科について、さらに関心を高めるため、学科ごとに設定された課題に取り組み学科教員と書簡でのやりとりを行いました。

対象入試:ノートルダム女学院高等学校内部進学推薦、指定校推薦、AOI・II期、公募制推薦I・II期

提出率:87.4%(対象者247名、提出者216名)

さらに2020年度からは、あらたにND教育センターの課題「文章作成力をつけよう!」(任意)も実施し、32名が取り組みました。

・スクーリング

ノートルダム女学院高校及び高大連携校10校からの早期入学予定者を対象とし、入学前に大学の授業を体験することで不安を解消するとともに大学で学ぶことの意味を考え、入学後の授業理解に役立てる講座を実施しています。

2020年度の対面によるスクーリングは中止となりましたが、予定していた講座は、これから大学で学ぶにあたって重要なものであるため、動画配信にてお届けすることといたしました。

対象入試:ノートルダム女学院高等学校内部進学推薦、指定校推薦、AOI・II期、公募制推薦I・II期

参加率:72.7%(対象者55名、参加者40名)

学長メッセージ	
大学での学び方・ものの見方・考え方	Enjoy English
大学生のためのノート・レポートの書き方	図書館の活用法
これからのキャリアデザイン入門	卒業研究発表(各学科)

受講生の声(アンケートより)

・大学生活をどのように過ごすべきなのか、よく理解することができました。目標をしっかり持って、卒業後のこともよく考えて大学生活を過ごしていこうと思いました。

・大学に入学する前にスクーリングを動画で知ることができてよかったです。不安しなくて、中々大学生活を想像することができませんでした。うまく大学生活を遅れるのわずとと考えていました。この動画で、少しずつ大学生活の想像ができました。

・入学前準備基礎講座(東進ハイスクール(ナガセ)提供通信講座)

希望者を対象に、業者が提供する通信講座(受講者負担)を提供しています。希望者は「数学基礎」「就職対策講座」「基礎英語」「国語表現力」をDVDで受講し、課題テストに取り組みます。

対象入試:ノートルダム女学院高等学校内部進学推薦、指定校推薦、AOI・II期、公募制推薦I・II期、一般I期、大学入試センター試験利用I期

受講率:10.4%(対象者280名、受講者29名)

個別学習のためのスペースを整備

授業のオンライン化やブレンド型の導入により、学内で個別に受講できる環境を整えるため、教務委員会が中心となり、ユーヅニア館2階～4階にスタディスポットを設置しました。個別学習の場はこれから一層必要となるため、2階と4階については、さらにスペースを増設し机とイスを整備しました。



ノートルダム女学院中学高等学校との連携授業

ノートルダム女学院高等学校プレップ総合コースの生徒を対象に、連携プログラムを実施しています。2020年度は新型コロナウイルスの影響により中止や延期などもありましたが、高校3年生を対象とした新プログラムもスタートさせるなど、以下のとおり実施しました。

2021年度は、中学生を対象としたプログラムも実施予定です。

・高校1年生対象

9月17日(木)14:20～15:10

自己探求としての「リフレーミング」(向山泰代教授)

10月9日(金)13:50～15:25

みらいデザイン☆プログラム(東郷多津准教授・河野有時教授・竹原広実教授・伊藤一美教授・河佐英俊准教授・朱鳳教授・佐藤純教授・渡邊春美教授)

・高校2年生対象

11月21日(土)14:30～17:00

みらいデザイン☆ハイスクール(企画・運営:濱中倫秀講師・キャリア形成ゼミ受講生)

1月13日(水)13:50～15:25

大学キャリアガイダンスを経験しよう(神月紀輔教授・吉田智子教授)

・高校3年生対象

1月21日(木)～3月末

「文章作成法I」(金美仙特任准教授)

特別科目等履修生として本学正規科目「文章作成法I」を受講するプログラムです。履修し合格すると「特別科目等履修生単位修得証明書」が交付され、本学に入学後の申請により「文章作成法I」(1単位)が認定されます。



編集後記

本文でもお伝えしたように、本学は関西の女子大で唯一、文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択されました。実は本学の教育のデジタル活用の歴史はとても古く、今から30年近く前の1994年から大学のWebページを作り、全世界に公開してきました。これは、京都の大学では京都大学に続いて2番目の早さでした。

本学が、Webの発明からたった数年後という早い時期にその重要性を理解し、行動できた秘密は「英語」にありました。というのは、本学にはノートルダム修道女会のシスター方をはじめとして、英語ネイティブスピーカーの教員が多く、英語で直接、世界の情報を入手し続けていたからです。

ND教育センターでは、引き続き「英語教育」と「情報教育」を含めさらなる教育の質の向上と教育環境の充実を目指し、学修者本位の教育を提供できるよう努めてまいります。

副センター長 吉田智子